

第6回 双葉町復興推進委員会 議事概要

■日 時 : 平成26年4月21日(月) 午後1時30分～3時30分

■場 所 : 双葉町いわき事務所 2階大会議室

■出席者 : 別紙座席表のとおり

■議事概要

1. 開会

2. 町長あいさつ

3. 議 事

(1) 双葉町復興まちづくり計画(第一次)に基づく事業計画(実施計画)について

(2) 復興公営住宅の整備状況について

資料2、3、4に基づき、事務局より説明後、質疑。

資料2 双葉町復興まちづくり計画(第一次)に基づく事業計画(実施計画)

➤事業計画(実施計画)の製本を配布するとともに、「事業計画のポイント」「双葉町復興推進委員会第1期提言書の事業計画(実施計画)への反映」についてまとめた資料をもとに事務局より説明。

資料3 福島県復興公営住宅の募集について

➤今後福島県が整備する復興公営住宅の詳細(募集対象者、募集時期、入居可能時期、整備予定地区・構造・戸数等)についてまとめた資料をもとに事務局より説明。

資料4 福島県復興公営住宅住居募集のご案内

➤福島県が作成した小冊子を配布し、家賃の考え方等について事務局から補足説明

委員の主な意見は以下のとおり。

- 今の仮設住宅の中には、徐々に腐ったり、風化しているのも見受けられるが、調査以降特に何も対応していない。今後年月が過ぎた場合に、こういった問題が出てくると考えられるが、それに対しては早期に対応できるような体制を整えてほしい。
- 「ふるさとへの帰還と双葉町の再興に向けた取組」の中に「大規模太陽光発電活用・推進計画の策定」案があるが、地元の方は、この提案をどのように考えるかを聞きたい。
- 太陽光発電(案)について、異議は出なかったが、「果たしてそれだけでよいのか」という意見が出た。太陽光発電事業は、20年くらいと考えられるが、それ以降はどうするのか。町でどのように方向性を考えているのか。

- 太陽光発電事業については、双葉町の全体の復興に関わる大きな事業の1つになる可能性もあるので、詳細が決まったら復興委員会にも知らせしてほしい。
- 地元の意見としては、「早く除染してほしい」「もう農業は無理だ」という意見が多かった。町への要望については、良い案が出なかった。太陽光発電事業については、「太陽光発電でもやらしてもらわないと、どうしようもないだろう」という話であった。「太陽光発電を作るならば、浜野地区・両竹地区にエネルギーに関係した研究所ができないものか」という話もあった。これらの意見については、どうしたらよいか分からないため、良い考えがあれば委員の皆さんに聞きたい。
- 復興公営住宅は5階建てとのことであるが、エレベーターはつけないのか。一番心配なのは、年をとって、階段を登ることができなくなることである。
- 復興公営住宅の入居は、仮設住宅に入っている方を優先してほしい。双葉町民枠があるのだから、町で入居者基準の方針を決めることはできないのか。
- 復興公営住宅が完成した際には、借上げ住宅は無くなるのか、それとも継続するのか聞きたい。借上げ住宅が継続するのであれば、家賃については、免除になるのか。
- 避難指示解除準備区域については、町として太陽光発電事業を考えてもよいと思う。それには、避難指示解除準備区域での除染が前提となるが、実際には、何も進んでいない。個人で太陽光発電を設置してもよいのではないか、という意見もあるが、町はどのように考えているのか。
- 帰還困難区域にある自宅で、片付けたゴミがイノブタにより散乱する被害に遭った。自宅のゴミは、線量が高く持ち出せないため、そのままになっている。町に要請すれば片付けなどの対応をしてもらえるのか。
- 太陽光発電事業については、もう少し研究しなくてはならない。どれくらい作れば採算が合うのかなどを検討しなくてはならない。
- 帰還困難区域は、更地にして除染をした方が、今後事業を行う可能性が高まるのではないか。帰還困難区域に対する取組があいまいである。

(3) 第2期の審議の進め方について

委員長から第2期の進め方について提案し、提案内容につき、事務局から資料5に基づき、説明後、質疑。

資料5 双葉町復興推進委員会【第2期】の審議の進め方について(案)

➤「双葉町の将来像」と「町民の今後の暮らしと町民コミュニティの形成」という2つのテーマを設定し、当面は委員を4つ程度のグループに分けて座談会形式により進めるという案をまとめた資料をもとに事務局より説明。

委員の主な意見は以下のとおり。

- 新たに委員として、区長会の会長も入れたらどうか。
- 原子力発電所事故の収束については、いつ頃までを見ているのか。それを見据えなくては、復興が始まらないのではないか。
- 第2期の審議の進め方案について賛成である。委員会は人数が多く時間も限られているので、気を遣って話をしない委員も多くいると思われる。少ない人数で話をした方が、多くの意見が拾い上げられる気がする。
- コメンテーターについては、専門家がファシリテーターのように仲介役をすることで、意見を引き出していく事ができるのではないか。
- 双葉町の将来像を作る時には、ある程度専門家が入る必要がある。住民だけでは難しい。太陽光発電事業については、アイデアが出る事は良いが、実行可能性を確認しないと、住民がそれで良いということで実行した結果、うまくいかなかったということもあり得る。成功するためには、ある程度煮詰めて話を進めていかないと、実現可能とはならない。
- 最終的には当事者である住民が、町をどうしていくのか、決めていくのが筋である。専門的な知見は、必要に応じて求めていけばよい。これまでコンサルタント等から提案だけして終わり、という不毛な議論が多かった。
- 当初各資市町村で復興計画を作った際に、浜通り地区は太陽光発電や風力発電といった同じような計画が立てられた。しかし、3年経ち実現されたところは無い。実行可能性を検証しないと、計画倒れになるということは、この3年間で実証された。「100 の空論より1つの事実」である。確実に1つを実施できれば、確実に復興に自信が持てる。
- 現実的には廃炉を産業として検討しなくては、町を活性化できない。負の遺産をプラスに考えていくことが、町の復興の現実的な路線と考える。
- 「中間貯蔵施設の建設地の国有化」という話が出ている。これらの問題を白紙として考えるのか、前提とするのか、で議論が全く変わる。
- 「家路」という映画が福島市で上映されている。避難者が置かれている現実の苦悩や問題点をテーマにした映画であり、当事者として見ると、涙無くして見られない。そこには夢も何もない。双葉町の将来について検討する、という大きな課題があるが、何年後に帰還できるのか、はっきりした事も分からない中で、夢だけを語り討論することは難しい。そもそも、一番心配する事は双葉町の行政が何年間継続できるのか、とい

うことである。

- 住民も、どうしたらよいのか分からずに、毎日右往左往している。私達も話し合っ、どのようなまちづくりをすればよいのか、頭が痛い。多くの住民の意見を吸い上げて、なんとかまとめていきたい。本当に今後行政が継続するのか、という心配は当然だと思う。
- 先が見えない中で考える中で1つの方法として、「シナリオ」という考え方がある。例えば中間貯蔵施設を、もし受け入れることになった場合に、町はどう考えたらよいのか、という議論を、「全体として」するのではなくて、「場合に分けて」整理する方法である。このようなケースに分けて話し合えば、心の整理がついていくのではないか。
- 世界に誇ることができる日本の科学を結集したエネルギー研究所を、双葉町に作って欲しい。この夢は、何年かかるか分からないけれども、実現してほしい。国で考えてもらえれば、明るい兆しが見えるのではないか。
- このあと行う廃炉は、人類の偉業になる。その経過を残す施設モックアップを双葉町に作れば、双葉町が世界遺産になる可能性もある。一方で、エネルギー研究所を作る場合には、土地が必要であり、それには町民の協力が必要である。協力がなければ、復興は進んでいかない。
- 早い段階で中間貯蔵施設を作る前提で復興計画を立てることが良い。
- 震災前に「サマーチャレンジ in ふたば」を海で毎年夏に企画・開催していたが、イベントの参加者で現在高校生や大学生になった学生が、自分達でそのようなイベントを企画して運営していきたいという、夢を語っていた。大変嬉しく、自身も元気を取り戻せた。そういう方たちのためにも、もっと進めていきたい。
- 討議グループの分け方に関しては、開催される回数を鑑みて検討したらよいのではないか。
- グループによる討議に関して会場の広さが心配である。
- グループによる討議に関して委員の専門分野が偏った場合はどうなるのか。
- グループによる討議に関して、専門分野が偏った場合は事務局に人選を任せたらよいのではないか。
- 廃炉や中間貯蔵施設に関して、新たな産業を公募してはどうかと考えている。

双葉町復興推進委員会の今後の進め方について、委員長から各委員に対し、

資料 5 のとおりで良いか諮ったところ、特段異議なしで了承された。

また、委員の任期は委嘱の際には本年 10 月までとされているが、審議終了まで、延長したい旨説明し、了承を得た。

4. 閉会

以上

第6回双葉町復興推進委員会座席表

(敬称略)

1 日時 平成26年4月21日(月)
13:30~15:30
2 場所 双葉町いわき事務所 2階大会議室

高野	間野	伊藤
陽子	博	哲雄

課長 駒田 義誌	事務局 伊澤 史朗	町長 伊澤 史朗	齊藤 六郎
課長補佐 細澤 界	(復興推進課)	副町長 半澤 浩司	菅本 洋
主査 橋本 靖治		教育長 半谷 淳	岩元 善一
主事 西牧 孝幸	事務局 武内 裕美	総括参事 武内 裕美	福田 英子
支援員 伊藤 壽紹	(復興推進課)	総務課長 船来 丈夫	岡村 隆夫
支援員 山中 啓総		秘書広報課長 平岩 邦弘	
支援員 由波 大樹	事務局 山本 一弥	税務課長 山本 一弥	小畑 明美
支援員 小山 勲	(復興推進課)	産業建設課長 猪狩 浩	中谷 博子
		住民生活課長 松本 信英	山本 真理子
議会事務局長 山下 正夫		生活支援課長 志賀 睦	岡田 常雄
会計管理者 半谷 安子		健康福祉課長 大住 宗重	川原 光義
		教育総務課長 今泉 祐一	高田 秀文

芥川 一則	復興庁 佐藤 弘之 企画官
	復興庁 林 真也 参事官補佐
丹波 史紀	復興庁 福島復興局 高橋 直人 次長
長林 久夫	復興庁 福島復興局 須田 亨 参事官補佐
	福島復興局 いわき支所 芳賀 克男 所長
岩本 千夏	福島復興局 いわき支所 林 文之 次長
相楽 比呂紀	福島県 避難地域復興課 佐藤 庄一 総括主幹兼副課長
石田 恵美	福島県 避難地域復興課 駐在員 熊坂 雅彦 副課長
小川 貴永	福島県 生活拠点課 渡邊 隆幸 主任主査
谷 充	